

## 高齢者の自立を助ける生活環境条件に関する研究

## 第三報 台所環境の実態とその評価

奈良女大生活環境 ○長谷川牧 梁瀬度子

兵庫女短大 正森由紀子 兵庫教育大 菊澤康子

〔目的〕高齢者の食生活の自立のための重要な要因と考えられる台所設備環境の整備，および高齢者の機能にあった生活機器の開発と普及についての現状やそれに対する高齢者の評価，将来のニーズを明らかにすることを試みた。

〔方法〕第一報と同じ

〔結果〕高齢者の身体的条件からくる台所の不都合な点として「段差があり危険」，「吊り戸棚が高すぎる」など，また機器では「機能が使いこなせない」「文字が見にくい」，「取扱い説明書の内容が分からない」などが多く挙げられている。現在使用している機器については，電子レンジの所有率および使用率が高く，将来購入・使用を希望する機器として電磁調理器を挙げる人が多い。電子レンジの利点として「手軽さ」の他「安全性」を挙げる人が25%おり，高齢者の安全性に対する要求が窺える。「鍋の空炊き」「ガスの消し忘れ」「油の過熱」等の調理中の失敗経験者は合計44%あり，76%がガス漏れ警報機等の安全のための設備を設置していることから，自らの安全の確保を行っていることが明かとなった。立位作業の疲労感を感じる人は半数以上おり，作業中の休憩(57%)や座位(34%)，寄りかかり(24%)姿勢をとっている。

以上から高齢者の自立のためには，使いやすさと安全性を重視した高齢者対応の設備機器の開発と普及が急がれるとともに，身体機能の低下をカバーするための高齢者側の行動特性を考慮した台所システムの開発が課題である。